

証券市場新聞

1 第185号

日経平均株価

2万1275円92銭

▼62円25銭(前日比)

TOPIX

1551.14

▼2.13(前日比)

2019
7/1
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



増税後はディスカウント

スーパーの存在感が高まる？
消費者の増税感が高まり、スーパーの存在感が高まる？

風意店取だら41の食
になる舗舗り急のドル料
ののは扱扱にの1品に
高消い比に円1107に
まり者率高輸高2円台
がのの率進が台と
追約ののの進が台と
い節高のの進が台と
約高のの進が台と
い約高のの進が台と

米中貿易戦争による懸念などから増税の世界的な景気減速一延期や凍結の必要性を唱える向きが増えている

軽減税率で過去と異なる

飲食料品や新聞は例

6月26日に通常国会の会期が終了した。噂されていた衆院解散はなく、G20の通過から今後は7月下旬の参院選投開票、8月24日からのG7首脳会談を経て、10月の消費増税へマーケットの関心が移ることになる。増税時に話題になるのが消費動向で、過去の経験則からも増税前の買いだめとその後の反動減による業績への影響が懸念される。ただ、今回は軽減税率が導入されることから過去の増税時とは異なり、小売業の今後の動向が注目される。

10%へ増税後も強い企業

デイスカウントには追い風か？

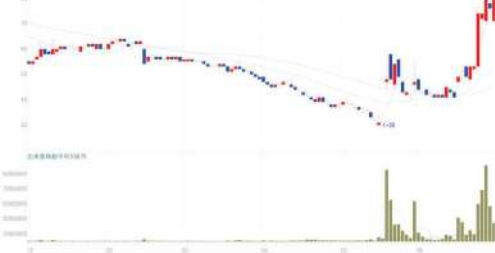
る。その代表的存在が業務スーパーを展開する神戸物産(3038)。世界中から直輸入した食材や自社工場のオリジナル商品を格安で販売しており、SNSなどにより口コミ効果もあり、5月度の月次売上高は前年同月比9.5%増の大幅伸びを記録している。安さのイメージが全国的に定着しているのが、

キホーテを展開するパン・パシフィック・インターナショナルホールディングス(7532)で、日用品を含めて様々な商品を展開しているのが強味。サンドラッグ(9989)は九州を中心にデイスカウントストア「ダイレックス」を展開している。これら値頃感を武器に展開するチェーン店は増税後も安定した売り上げが期待される。

日経平均日足チャート



オンキヨーの日足チャート



オンキヨー急伸 インド工場の生産拡大

注に対応し、昨年度比約3倍となる、月産50〜60万台体制に向け、生産ラインを拡大していることを発表した。車載用スピーカーを中心に当初計画を上回る

週明け24日、オンキヨー(6628)が急伸。OEM事業の主要拠点のインド工場での好調に拡大する受注

受注を獲得しており、現在では昨年度比2倍を超える月産35万〜40万台の生産能力を持つまでに成長。2020年以降第2工場、第3工場の設立を視野に入れ、増加する受注に対応し生産拡大を目指す。

公開価格の2.8倍

ブランディングの初値24日、前週末に東証マザーズに新

今週の動意銘柄

規上場したブランディングテクノロジ(7067)が公開価格1740円の2.8倍となる4825円で初値が生まれた。同社はインターネットを利用した各種情報提供サービス、広告業および広告代理店業、インターネットホームペー

24日、コロプラ(3668)が急落。従業員による不適切取引が判明した。役職者を含む2名がセルスラニングの操作を目的に自社費用850万円で自社ゲームタイトル「最果てのバベル」への課金を取引先に依頼、13日に課金が実施された疑いが判明した。

取引不正不プラコロ

防衛関連はトランプ発言

25日、石川製作所(6208)のほか、豊和工業(6203)や細谷火工(4274)など防衛関連が大幅高。全般薄商いで手掛

に言及した」と伝えたことで投機資金が向かった。中東の地政学リスクが意識されていたことから、反応が大きくなった。

中村超硬連続S高

25日、中村超硬(6166)が連日ですトップ高。新株予約権のうち33万株が権利行使されたこと

で希薄な権利行使されたこと

公開価格の2.3倍

25日、インフォネットの初値

化懸念が後退した。前日は設備売却や技術供与で約20億円の収益を計上することを材料視した。

正直いいさんの株で大判小判

28日の東京市場は反落。円の強含みや上海株が軟調だったことから、前日急反発の反動で売りが優勢でしたが、ジャスタックはプラス推移するなど中小型株は買われました。この欄を執筆している段階で米中首脳会談の結果は不明ですが、イベント通過によるアク抜け感から売りが活発化するでしょう。SQにすることも想定されますが、名実ともに7月相場入りでディーラーな位置を見ても乗っ取り、短期値幅取り候補ではベルテック(8157)、朝日ネット(3834)が堅調です。好取組のハリマ化成(4410)や上振れ期待の東レ(3402)も引き続きマークです。 花咲翁



7月相場入りで動き易く

銘柄ではソーせい(456)が高値をとり、短期値幅取り候補ではベルテック(8157)、朝日ネット(3834)が堅調です。好取組のハリマ化成(4410)や上振れ期待の東レ(3402)も引き続きマークです。

マクセル権利落で売り

26日、マクセルホールディング(6810)が連続急落。特別配当の権利落ち日です

仕舞い売りがかさんだ。20年3月期は年36円配当とは別に6月末に250円の特別配当を実施するが、前期の大幅減益に続き、今期も減益を予想しており、権利落ちの影響が大きかった。

最新鋭設備が稼働

イボキン

金属系廃棄物再生ニーズに対応



大型破碎選別機

小型電
子機器や
家庭用電
気製品な
し。
働を開始
し本格稼
働も完了
査も完了
政当局の
更新、行
鋭設備に
の主力で
ある本社
工場（兵
庫県た
つの市）
の大型破
碎選別機
を最新鋭
設備に更
新、行政
当局の使
用前検査
も完了し
本格稼働
を開始し
た。

（会社側）という。処理能力に加え、選別能力も高めることで排出事業者のニーズに
応えるとともに、環境保全に対する
社会的責任を果たし、事業収益
性も高めていく考え。

企業レター

イボキン(5699)

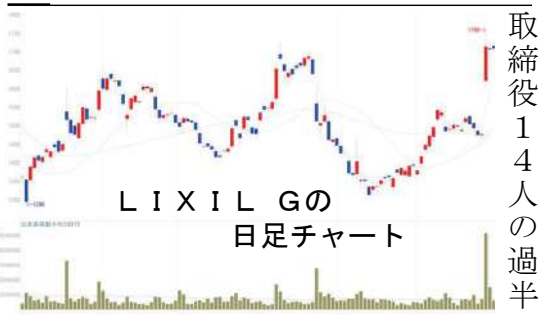
は産業廃棄物中間処理の主力である本社工場（兵庫県のたつの市）の大型破碎選別機を最新鋭設備に更新、行政当局の使用前検査も完了し本格稼働を開始した。

ど金属系産業廃棄物リサイクルへのニーズに対応することが目的で投資額は約2億円、金属系廃棄物の破碎処理能力は旧設備の1.5倍にアップした。中国の環境政策の転換や国内のバーゼル法改正に伴い、金属系廃棄物リサイクルへのニーズは今後ますます高まる。予想され「破碎後の後工程となる選別工程の増設も検討している」

26日、LIXILグループ（5938）が急伸、約2カ月半ぶりに年初来高値を更新した。25日に開催された株主総会で前CEOの瀬戸欣哉氏が取締役任に再任されてCEOに復帰することがポジティブ視された。取締役について株主総会で瀬戸氏側の候補が全

LIXIL急伸し新値

経営トップめぐる問題収束



取締役14人の過半数を占めることになり、経営トップをめぐる問題が収束する。ことから、収益再建策進展へ期待が高まった。国内大手証券による投資判断と目株株価の引き上げも買入気を誘った。

公開価格13%上回る

ヤマキザイの初値

26日、ヤマキザイ(7677)が東証2部に新規上場、公開価格1280円を13.3%上回る1450円で初値が生まれた。鉄道関連製品、産業用電子部品などの卸売業を展開する。

半年を振り返って

早いもので今年の相場も半分が経過しました。昨年末比452円安でスタートという波乱の大発会で幕開けした東京株式市場は、その後順調に回復して4月24日には2万2362円まで上昇しました。その後6月4日に2万0289円まで下落しました。3121円幅の上昇に対し2073円の下落ですから、丁度2/3押しということになります。

さて、6月相場の月足は前月の陰線に陽線が差し込んだ形となりました。しかし、2万1770円近辺で12カ月線と24カ月線がデッドクロスとなりましたので、この関門を抜けることが出来るのかどうか重要です。前年の年足が陰線の場合は、翌年の前半に年間高値をつけるケースが多く、年後半は昨秋同様に波乱となる可能性がありますので、気を引き締めねばなりません。基本は強い株に付くということになりましょう。

日々勇太郎



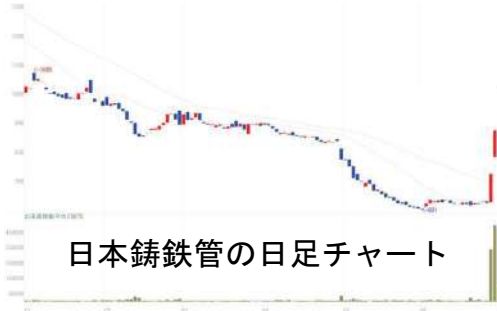
転ばぬ先のテクニカル

サイボウズ出尽し感

27日、サイボウズ(4776)が急反落。19年12月期の業績予想を上の方修正、連結業績について営業利益を前回予想の8億3200万円から2億3200万円から9億4900万円へ引き上げたが、当面の材料出尽くし感から利益確定売りが優勢になった。売上予測と投資予定費用

新日本製薬の初値

27日、新日本製薬(4931)が東証マザーズに新規上場、公開価格1470円を13.2%上回る1664円で初値が生まれた。化粧品、健康食品、医薬品の企画及び通信販売、店舗販売、卸売販売を手掛ける。



「オセール」を川崎市が採用
高
管
12)が
スト
高。非
削の水道
管工事現
場で作業
負荷を革
新的に軽
減する
「推力伝
達バンド」を開發・
商品化し、川崎市が
採用を決めたと発表
した。鉄道、交差点
河川横断など開削工
事が困難な箇所で行
う非開削工法で、管

高ストップ鑄鉄管

「オセール」を川崎市が採用

27日、日本鑄鉄管(5612)が高ストップ高。非開削の水道管工事現場で作業負荷を革新的に軽減する「推力伝達バンド」を開發・商品化し、川崎市が採用を決めたと発表した。鉄道、交差点河川横断など開削工事が困難な箇所で行う非開削工法で、管

今週の動意銘柄

路を布設する際に耐震性能を維持する治具。新商品「オセール」は地上でボルト一本を締め付けるだけで作業が完了する。公開価格47%上回る

あさくまの初値
27日、あさくま

ハニーズ上方修正で増配

週末28日、ハニーズホールディングス(2792)が4

販売費、一般管理費が計画を下回った。

公開価格の2.3倍もS安

リビントテクノ上場

28日、リビントテクノロジーズ(4445)が東証マザーズに新規上場、公開価格3900円の2.3倍となる9000円で初値をつけたが、ストップ安まで売られ波乱の動き。WEBテクノロジーズと不動産を融合した不動産会社比較サービス「リアルメディア」を企画・開発・運営する。

購読会員募集中!

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

高野恭壽の
株式情報 **これでどや!!**

大阪で600人越えの集客を記録、アンケート調査で「是非聞きたい講師」全国第1位
人気株式評論家 高野恭壽の株式マガジン!

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載!

<https://www.mag2.com/m/0001678061.html>

潮流

株価の位置は国力の差

米国株最高値が意味するもの



た史上最高値を更新した。

米国で米主要株指数を買っている個人投資家は誰一人損をしている人はいない。日本のバブル崩壊が始まった1990年にダウ指数を買っていれば10倍に資産が増えている。100万円が1000万円だ。この30年間で資産が10倍になった米国民と30年間で資産が半分になった日本人との格差が国力の差となっている。株価の下落は企業の脆弱化につながる。

日本の株式市場の動きは外国人投資家（ヘッジファンド）の日経平均先物とTOPIX先物の売買動向と完全に一致している。今年5月にヘッジファンドが225先物とTOPIX先物の合計で1兆8239億円を売り越した。日経平均は5月7日（2万2184円）から6月4日（2万0289円）まで1895円も急落した。昨年12月にもヘッジファンドは先物を合計で2兆256億円も売り越した。日経平均は1カ月で約3600円も急落した。今年3月にもヘッジファンドは先物を1兆2125億円売り越した。この間、日経平均は約900円急落している。



逆にヘッジファンドが先物を買っているときの日経平均は上昇している。

米S&P 500種は6月21日に2964ポイントを付け、昨年5月に付け

4月にヘッジファンドは先物を1兆8392億円買い越した。この月の日経平均は1150円上昇した。今年1月は先物を346億円買い越した。1月に日経平均は約1000円上昇している。2月もヘッジ

ファンドは先物を8351億円買い越した。この間の日経平均は約1000円上昇した。この様に日本株はヘッジファンドに支配されていることがはっきり分かる。ヘッジファンドのような投機性が強い投資家が先物を利用して日本に上場している大企業の株価を簡単に急落させることができてしまう。

そのヘッジファンドが先物を買って転換した。6月第2週（10～14日）の日経平均先物とTOPIX先物の売買動向によると、外国人投資家（ヘッジファンド）は7週ぶりに買い越しに転じた。先物を合算した買越額は241億円だ。さらに6月第3週（17～21日）の先物も509億円の買い越しとなった。ヘッジファンドが先物を買って転換したということは、日本株は上昇が続くということの意味している。

潮流銘柄は、イオレ（2334）、フィクスターズ（3687）、ニーズウエル（3992）。



岡山 憲史氏（株式会
社マーケットバンク代
表取締役）のプロフイ
ール

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

約1万人の参加者の中
の資産運用コンテスト「第
一回S1グランプリ」にて

ヘッジF買転換で上昇続く

チャートから読む 騰落銘柄

NaITO(7624)



6月上旬までの200円トビ台での底値揉み合いを経てジリ高基調続く。6月13日にザラ場で付けた222円を抜けたことで4月15日の年初来高値257円を目指す。Web受注軌道に乗り業績も好調。

都築電気(8157)



大勢上昇トレンドのなか、約1カ月のスピード調整を経て再び高値更新。出来高漸増で相場の腰は強く、中期2000円を目指す。介護施設向けソリューションなどロボット・AI関連ビジネスを本格展開へ。

Aiming(3911)



5月下旬までの350～360円の揉み合いを経て、6月7日の赤字幅拡大の下方修正を受けて下げ幅拡大。260円台では下げ渋るも、スマホゲーム苦戦が続いており、更なる下値を見る可能性も。

HIS(9603)

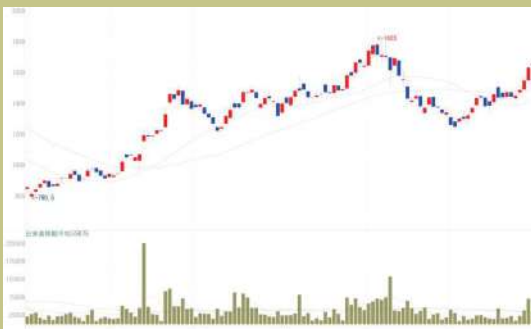


週足、月足が陰転、大勢下降トレンド確認のあと、2Q決算への失望売りにマドを空けて急落。なお5日線に上値を抑えられ、下値模索が続く。押し目買いに信用買い残が積み上がり、一段安を警戒。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



システムサポート(4396)

AI関連含め全サービス伸長

5月の年初来高値を目指す
 与に期待。(と)
 成する機能を導
 シフトを自動生
 ではAIを使い
 H I F T E S
 理システム「S
 ウド型ソフト管
 超で着地。クラ
 2%増」と計画
 0万円(同23)
 利益4億960
 5%増)、営業
 (前の期比16

システムサポート(4396)の株価は6月4日の安値1225円を底に上昇、50日移動平均線を上抜いてきたことで5月9日に付けた年初来高値1825円を目指す展開を期待したい。

ICTを活用したシステムのコンサルティングから、企画・開発・構築、運用・保守を含めて総合的に展開している。集計中の19年6月期はソリューションでは物流業における基幹システム更新案件、アウトソーシングではAI関連サービスを含めたすべてのデータセンター業務が伸びており、連結売上高116億1300万円

5月の年初来高値を目指す



ハリマ化成G(4410)

PER8倍割れで利回り3.7%

と判断される。
 中国山東省の新製紙工場は立ち上がりから順調で、持分法会社化したサンパインが通期貢献、サンパインと連携してローターがシェアを拡大しており、一段の増配や自社株買など還元への期待も強い。(さ)

ハリマ化成グループ(4410)は4ケタ割れ水準で三尊底を形成、本格反騰へ向かってきた。PERは8倍割れ、3.7%の高配当利回りに加え、信用倍率0.55倍の好取組も下値を支えている。

20年3月期は連結売上高830億円(前期比5.6%増)、営業利益47億円(同0.7%増)と増収ながら微増益予想にとどめた。ただ、前3月期が計画を上回り16%超の営業増益で着地するなど発射台が高く、米中貿易問題や中国経済減速など不透明な事業環境も織り込み、保守的に見積もった数字で、あくまで最低ライン

今3月期計画あくまで最低線

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

2万2000円回復へ

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

6月最終週の東京市場は27日に日経平均が大きく反発しました。すでに日経平均が下落する過程で半導体、電子部品の一部が逆行高をみせるなど、先高を暗示する動きがみられていました。案の定、日経平均の反発に大きく貢献したのはそうした銘柄が中心となり、全体にまで広がりを見せたといえるでしょう。

この上げの要因はG20を前にして米中の貿易戦争が一時休戦する見通しが語られて、それに反応するようになり、機械、化学、鉄鋼、自動車、精密、

認可待つなら日本新薬

脳会談の結果はわかりません。トランプ大統領は土壇場になつて手の平を返す可能性もあるだけに、警戒感を持ってみます。とはいうものの、イラン情勢などの懸念で十分に整理売りをしていただけに、需給関係は全体的にも戻り待ちの売りなどで反落する可能性もあります。上げ基調に転換した電機などの押しがあれば拾うべきでしょう。

外需系の一斉反発をみて折角戻し始めた医薬品など内需系の一部や幕間つなぎで買われていた材料系などはこの上げの中で逆に売られていました。しかし百貨店はJフロント、高島屋と順番に戻す動きが強まっています。この日はエイチ・ツー・オリティリング(8242)が反発しました。Jフロントも一服の後戻していましたが、何しろ長い調整が続いていただけに、戻り基調は継続するでしょう。

医薬品の中で日本新薬(4516)は引き続き調整面が続いていきます。6月3日の安値近辺まで下落してきました。ここで止まらない場合には調整は長

情報通信と幅広く戻していただきました。この欄を執筆している段階で、米中首

引く可能性があります。ありま先的な動きで対応さる方は戻り場面を待つて、処分もやむを得ないと思つていきます。しかし、最初の核酸医薬品の認可が迫っており、それを待つて持続する方はこの7500円割れ場面があれば拾う作戦も悪くありません。認可となれば1万円相場を見込めるためです。大塚ホールディングス(4578)の3500円割れも売られ過ぎであり拾う場面でしょう。

今回の狙いはブイ・テクノロジ(7717)、生分解性プラスチックのカネカ(4118)に加え、EIZO(6737)とローム(6963)です。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報
これでどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

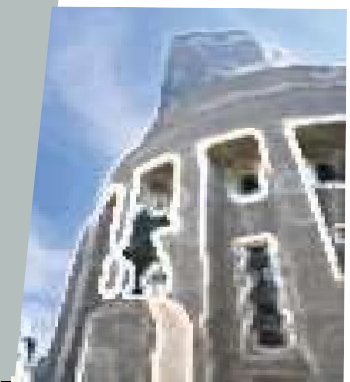
～したたかな大手キャリア～

筆者名義で契

約している家族のスマートフォンがほぼ使用不能になったので機種変更を行った。自分自身で使用している端末は月額2980円の格安スマホなので、家族を説得して大手キャリアからの乗り換えを画策すべく、MNP（ナンバーポータビリティ）の申請をコールセンターで行った。しかし、現在の端末の使用年数が3年を越えているので新機種購入で3万円の割引を受けられるというので、「メルアドも変わらないし、そのまま機種変更する」ことになった。

3万円の割引を受けるべく携帯キャリアのショップに行くと、新たな端末自体は割引で購入できしたが、音楽配信などの有料付加サービスを勧められてしまった。ショップの店員曰く「格安スマホ会社と料金はそんなに変わらないですよ」とのことだが、付加サービスを加えると総額で6000円は超えてしまう。

政府の指導でスマホ料金は安くなる方向に向かっているが、大手キャリアは減収分を補う様々な施策を練っている。携帯違約金1000円も話題になつてきているが、各社のサービスを詳細に分析しないとユーザーが満足する料金は実現しない。



New product

江崎グリコ 京都吉兆総料理長監修 アイスの実<国産野菜シリーズ>

アイスの実産野菜シリーズ



江崎グリコ(2016)は、老舗料亭の京都吉兆総料理長徳岡邦夫氏監修の下、この夏限定の高級アイス「アイスの実<国産野菜シリーズ>」全4種類を

共同開発。7月3日から16日の期間限定で、高島屋大阪店と京都店の2店舗で販売する。

このシリーズは「国産かぼちゃ」、「国産さつまいも」、「国産にんじん」、「国産とうもろこし」の4フレーバーからなり、ベースとなる素材は国産野菜を100%使用。香料・着色料・人工甘味料を一切使用せずに、アイスの実の特長である「ぎゅっと凝縮された素材の濃い味わい」を実現している。店舗販売に加えて高島屋各店のばらのギフトセンターや高島屋オンラインストアでも数量限定でギフトセットを発売、ギフトセットは7月3日以降、順次発送を予定している。

「ビフレクス」3号店オープン

住友ゴム工業

千葉市にコンディショニング施設



ビフレクス朝日ヶ丘

住友ゴム工業(5110)

「ビフレクス」は筋肉や関節の柔軟性を高め、姿勢改善などを目的としたストレッチや軽い運動ができる小型のフィットネス施設で、今回オープンする3店舗目となる「ビフレクス朝日ヶ丘」は、「ビフレクス」として初めての「女性専用」施設となる。

サーキットトレーニング専用のマシンを併設したことで、軽めの有酸素運動を短時間に集中して行えるため、運動が苦手な方や年配の方も安心して利用できる。



ニング施設「ビフレクス朝日ヶ丘」(千葉市花見川区)を7月1日にオープンした。

敏腕先物トレーラー

ハチロクの裏話

繋がった。日本株もつられ上昇した。日本株が、利上げに転じた時から日本株だ

7月FOMCを注視

仕掛け的な売りは乏しい

先週の日経平均は週末のG20を控え、様子見モードの展開となった。執筆時ではまだ注目の米中首脳会談の結果はわからないが、週初はこの結果が大きく影響しう。今週から7月相場入り。月末(30日~31日)にはFOMCがあり、米国金利先物市場では100%利下げがあるとしてかなり織り込んだ水準となっている。その後、何回の利下げの可能性を示唆されるかが注目される。過去に今回行う「予防的利下げ」は過熱相場を招いていたとの指摘もある。確かに、95年7月から98年9月からの予防的利下げの時は株価の下落を止め、その後の株価に

日経平均は底固い展開となってきた。為替が106円台に入っても2万1000円を割れることなく、この水準では買値メドとして1000円、その下は7日窓埋め2万907円77銭、今回の戻り幅の68.2%押し2万0674円が支持ラインとして挙げられよう。(ハチロク)

（30日~31日）にはFOMCがあり、米国金利先物市場では100%利下げがあるとしてかなり織り込んだ水準となっている。その後、何回の利下げの可能性を示唆されるかが注目される。過去に今回行う「予防的利下げ」は過熱相場を招いていたとの指摘もある。確かに、95年7月から98年9月からの予防的利下げの時は株価の下落を止め、その後の株価に

当面のスケジュール

- ・ 28日 G20大阪サミット(～29日)
G20に合わせて米中首脳会談の予定、日米首脳会談の予定
- ・ 30日 中国6月製造業PMI(10:00)
- ・ 1日 6月調査日銀短観(8:50)
6月自動車販売台数、6月消費者態度指数(14:00)
路線価公表
OPEC総会
米6月ISM製造業景況指数(23:00)
- ・ 2日 6月マネタリーベース(8:50)
ロシアなど非加盟主要産油国との合同OPEC会合
- ・ 3日 米6月ADP雇用統計(21:15)
米5月貿易収支(21:30)
米6月IS非製造業景況指数(23:00)
- ・ 4日 休場:米(独立記念日)
- ・ 5日 5月家計調査(8:30)
5月景気動向指数(14:00)
米6月雇用統計(21:30)



編集後記

歴史上の人物や著名人のお墓参りを趣味にする「墓マイラー」と呼ばれる人がいることをご存じだろうか。全国各地の墓を巡って、故人が生きていた時代に思いを馳せるといい、歴史好きの女子「レキジョ(歴女)」ブームにも後押しされ、若いカップルや夫婦で楽しむ人も増えているという。一聞では変わった趣味と感じるが、観光で神社仏閣や旧所名跡を訪ねること考えれば違和感はない。週末は中之島公会堂と適塾でも観て、かつての北浜を思い出しながら飲みに行くかと思った。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。